

式 辭

所 長 柳 下 鋼 造

本日ここに林野庁長官始め、関係各位多数の御臨席の栄を賜り北海道立林業指導所開所五周年の記念式典を挙行致しますことは、当所の誠に光栄とするところであります。顧みますに、北海道の林業研究指導機関として、札幌市郊外野幌の原生林に開設されました北海道林業試験場が、明治四十一年以来四十余年間に亘つて、本道林業のために幾多の功績を残して参りましたが、昭和二十二年にそれまで北海道庁の所管でありました国有林が、林政統一により農林省に移管せられるに伴いまして農林省林業試験場となり、更に同場の機構の改組によつて林産関係の研究施設が東京都目黒の本場に吸収されました結果、北海道に於ける林産関係の研究機関は全く失われるに至りました。

それがため北海道の林産工業の振興のため、本道の環境に適応し且新時代にふさわしい性格をもつた独自の林業研究指導機関の必要が痛感せられるに至りまして北海道費による林業指導所の設置が計画せられ、それに基いて昭和二十四年十二月に本道木材工業の中心地である当旭川市に土地が選定せられ、当時の日本木材工業株式会社の敷地一四〇九一坪の地上権譲渡と建物一九〇八坪及び機械工作物等金貳千参百余万円で買収し、ここに当林業指導所が設立されるに至りました。爾来各年度に亘り逐次施設が拡充されて参りましたが、その主なるものは昭和二十五年新設の製材工場、加工工場、昭和二十七年の繊維板工場、昭和二十八年の合板工場、昭和二十九年のチップボード製造機械、今年度のモザイクフローリング製造機械等であります従いまして現在に於ける諸施設は敷地二七〇〇〇坪、建物工場倉庫住宅等六十八棟延四六六七坪、機械類を合して財産評価参億参千余万円であります。次に機構におきましては、その後業務の推進上種々改善を加へまして現在では総務部二課、企画部二課、試験部一課三工場、研究部三研究室を以て構成し、総人員は二百六十三名となつて居ります。

予算関係は昭和三十年の収入予算参億参千万円、支出予算参億四千五百余万円であります。当所設立の目的は本道林業林産の重要性に鑑み、木材工業の育成により本道の資源開発に寄与すると共に、国民生活の向上安定に資することを意図したものであります。この目的を達成するために木材の高度利用を中心とする応用研究と、その工業化に重点を置き研究成果は事業面に直結するようこれを中間試験工場に移し技術的試験、或は企業的検討を行いその結果を一般に普及指導致して参りました。この間に於ける当所の試験研究の成果はその都度研究報告、月報等に発表致して参りました。

この機会に研究成果の一端を御披露させていただきますれば、段ボール、ロール、コラゲード等の特殊中芯の合板、プラスチック、レガー等の特殊合板、サニーボード、スプリントボード、シェービングボード、タイルボード等のハードボード、吸音板、ランバーコア合板、モザイクフローリング、集成湾曲材等の一連の材質改良的手法による新製品、更に発泡接着剤、新防腐剤ポリデンソルト、或はシイタケ菌林指1号等があります。

その他木材糖化に関する研究並に製材工場における薄鋸の使用、木材乾燥技術の向上改善、本道木材工業の経営分析等についても研究並に調査を行つております。

以上は当所五ケ年間の業績の一端であります。これらが本道の木材の高度集約利用と木材工業の振興発展行致にいさゝかでも貢献致して居りますれば喜びと存ずる次第であります。而してこれらの成果を遂すことの出来たことは、偏に関係各位の絶大なる御支援とこの面に対する道民各位の深い御理解によるものと心から感謝致しているもので御座います。

最後に当所はこゝに五ケ年の歩みを続けて参りましたが、道の機関として道民の要望に沿ひまして一層の努力を傾注致したい念願で御座いますから、今後共何分の御指導と御鞭達に預り度く御願ひ申上げて式辭と致します。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
X 告XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX 辭 X
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

北海道知事 田 中 敏 文

本日ここに北海道立林業指導所開設五周年式典を挙げるに当り所懐の一端を述べる機を得ました事は、私の最も欣幸とするところであります。森林資源は、水産地下資源と、並んで本道における三大資源に属し、その蓄積は十九億石、我が国蓄積の3分の1を占める雄大なるものでありまして、これが合理的利用は本道の総合開発上、最も重要なるばかりでなく、関連産業延いては、我が国の国民経済伸展上重要なる地位を占むるところであります。

昭和二十三年林政の統一に際して内務省所管の野幌林業試験場と、皇室林野局所管の林業試験場が、併合せられて農林省所管となり、育成林業部門は、北海道支場に残され林産物の利用部門の研究は、中央の試験場に集結せられる結果となつたのでありますが、私は他府県と樹種林相を異にする莫大なる森林資源を背景とする本道の木材工業のために、北海道独特の木材に関する研究指導機関の必要性を痛感し従来の研究機関を、再検討し産業に直結する指導機関を、設置する事とし調査研究室を、中核として、これに中間試験工場を配置して、研究成果は附属工場において経済並に技術に立脚した企業試験に移し而して、得たる成果を直ちに木材工業界に役立たしめんと図つたのであります。

この構想は当時本邦において始めての試みでありまして、その成否は、斯界から齊しく注目せられたのでありますが、昭和二十五年創設以来満五ケ年地方財政上の困難性もありましたが、漸次設備の充実を進めると共に、此の間所員各位がよく創設の使命を体せられて真剣なる努力を傾倒せられ着々としてその業績が挙がるに至り、林産工業方面に幾多の新分野を開き、殊に従来利用価値の低かつた未利用材及び、廃副材の新規利用面を開拓しあるいは又、木材化学工業部面に新しい曙光を見出して、広く業界に貢献するに至りましたことは、自他共に認める所でありまして、誠に喜びに堪えない所であります。

私はこの機会に所員各位の献身的な御努力と御精励に対して深甚なる敬意謝意を表すると共に、更に本指導所の使命の重大なるに思いを致され科学的研鑽にあるいは技術の向上に一層の工合と精進をつくされ以て業界の興隆に一致協力せられんことを切望致しまして、告辭と致します。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
X 祝XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX 辭 X
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

林野庁長官 柴 田 榮

本日茲に北海道立林業指導所の開設満五周年の盛大なる記念式典を挙行せられるに至りましたことは、ひとり北海道林業、林産業の発展のためのみならず、我国林業、林産業の発展のため誠に慶賀に堪えない次第であります。

御承知の如く北海道の森林は我国の重要資源であり、その活用如何はたゞに北海道のみならず、日本の産業経済に及ぼす処の影響が極めて大きいのであります。本道におきましては、かような観点から夙にこの資源の高度有効利用化に努力を結集され、その具体的現われとして全国に先んじこの研究指導機関を設置されたのであります。本指導所は新しい木材利用の在り方に注目すべき幾多の示唆を与えられたるのみならずこれが企業化の可能性についても直接林産工業面へ適確な指針を与えられる等、企業の進歩発展に寄与せられた功績は極めて顕著なものがあります。開所後日尚浅いにもかかわらず、今日の成果を挙げ得られたことは創始者の卓見の然らしむるところでありませうが、これが運営に当る所長以下各位の日夜嘗々として研究努力せられた賜に外ならないのでありまして、衷心から敬意を表する次第であります。

願わくは今後益々御研鑽を積まれ、一層林業界への貢献進展にせられると共に、本指導所の益々発展せられんことを期待して止みません。この意義ある盛典を祝福し一言以て祝辭と致します。

祝 辭

農林省林業試験場長 大 政 正 隆

本日ここに北海道立林業指導所開所五周年記念式を挙行せられるに当りましてお招きを受け、一言お祝の言葉を申述べる機会を得ましたことは、私の大変喜びと致すところであります。

近年森林の乱伐や、引続き来襲する天災から国土の荒廃ことのほか著しく、国を挙げて国土の緑化推進、森林資源の保続が叫ばれておりますが、木材を無駄なく有効に利用する方法を研究することこそ、資源愛護の立場からわれわれ林産研究部門をもつ機関として最も力を致さなければならないものと考えられます。

貴指導所は林業試験場が林産研究部門の拡充統一を図るとほゞ期を一にして開設せられました。以来貴所は常に私共の試験場と密接な連絡を保ちながら応用方面の研究とその成果の普及に努力せられ、木材工業界に多くの功績を残されました。かくして貴所がわが国最大の地方機関としての今日あるに至りましたことは道御当局の御理解はもとより、所長、研究員を初め、従業員諸氏の御努力の賜であると深い敬意を表します。貴所の業績の主なものを挙げますと、先ず木材加工方面においては凍結材の製材技術の確立、製材歩止りの向上、製材作業基準及び道材乾燥スケジュールの決定、乾燥操作法の基準確立等があります。その他単板の切削に新理論を打立て、それにもとづく優良単板の製造法を決定する等業界に寄与するところが少なくありません。貴所はまた、発泡接着剤を考案し、弯曲集成材製造の理論的解析を行つてこの方面の今後の発展に寄与されようとしております。更に種々の材料をコアとする合板を試作されるなど、業界の要望が那邊にあるかを洞察して、新しい技術の確立を推進され、講習其の他を通じて、幾多輝かしい成果をあげつゝあります。貴所の繊維板部門は、今や繊維板の年産二千屯の優秀工場をもつております。

またチップボードもパイロットプラントの設備を完了し、繊維板、チップボード両者にわたる研究部門は全く充実されたものとなつて、研究即生産の完全体系が確立されました。繊維板は未利用材または低価値材が主原料であり、チップボードには合板工業の廃材が用いられる等、常に新機軸が開かれて居ります。これ等の施設の建設は、国内機械メーカーによき指針と刺戟を与え、斯界に多大の貢献を示されました。さらに特記しなければならないのは、貴所開設以来、毎年不如意勝な研究費の中から、木材糖化研究に対する委託費を支出されていることであります。

本年一月閣議の決定をみました「経済自立六ヶ年計画」並びに「木材資源利用合理化方策」最近の「産業構造研究会報告」は、何れも木材糖化工業の育成を図るべきであるとしており、道行政の一目標であることも周知の通りであります。

勿論これが工業生産の軌道にのり、国家経済に寄与するためには、新産業であるため、幾多の基礎研究と中間試験が行われなければなりません。貴所はこの研究を推進され、濃硫酸法による木材糖化の設計図を完了されました。

以上に述べました様にこの短い五年間に数々の輝かしい業績を残された貴指導所の卓見と御努力に対してはたゞたゞ敬服する次第であります。

願わくば斯界発展のために今後尚一層の御努力をお願い申し上げます。

本祝典に際し私共林業試験場も心からの御協力をお約束申し上げ御祝辞と致します。

祝 辭

北海道立工業試験場長 高 岡 文 夫

北海道における林産資源利用工業開発の指導機関として、設立以来すでに数多くの成果を挙げつつある北

北海道立林業指導所が、隆盛裡にここに満五周年の祝日を迎えましたことは、同じく試験研究にたずさわる機関の一つとして誠によろこびに堪えないところであります。

当林業指導所が設立以来、我々として築きあげた各種の試験研究の成果は、今や本道の新しい木材利用工業に幾多の貴重な貢献をなしてあります。更に進んで不良木材を化学工業原料に利用せんとする。所謂木材糖化の試験研究の成果は広く世の注目を浴びるところでありまして、この機会にその完成の速かなることを祈つて止まない次第であります。

特に当林業指導所においては、試験研究機関の念願である試験研究と生産の直結を科学的に推進しておられることは、誠に敬服に堪えないところであります。今後益々所員御一同の御健闘を祈ると共に、当指導所の健全な発展を願つて止みません。簡単ながらこれをもつて祝辞と致します。

開所五周年記念式典経過

林業指導所が昭和25年に設置されて以来、本年度五周年を迎えることになったので8月22日から約1週間に亘つて種々の記念行事が実施された。

本年は道の林業年次大会が8月23日に旭川で開催されることになっていたのでこれと期を同じくしたため参加者も多く極めて盛会裡に終了することが出来た。記念行事の実施に当つては協賛会をはじめ各方面の方々から非常な御高配を賜つたがこの機会に厚く御礼を申上げる次第である。

各行事は次の日程によつて行われた。

- 8月22日 午前8時～午後2時
招待者所内公開
- 8月22日 午後4時～午後7時
記念式典及祝賀会 アサヒビル5階
- 8月23日 午前9時～午後9時
一般所内公開
- 8月23日～8月26日
記念展示会 丸井デパート5階
- 8月27日 午後1時～午後3時
所内表彰式及祝賀会

尚同時に実施される予定であつた記念講演会及び研究発表会は種々の都合から秋に延期された。

記念式典及び祝賀会は指導所構内に適当な場所がないため止むを得ず旭川駅前アサヒビル5階上川生産連大講堂に於いて行われた。参会者は定刻30分前頃からあいついでつめかけ約200名に達した。

式の順序は次の通りで当所総務部長が進行係となつて進められた。

- 1. 開 会 の 辞
- 2. 式 辞
- 3. 告 示
- 4. 感 謝 状 贈 呈
- 5. 来 賓 祝 辞
- 6. 祝 電 披 露
- 7. 閉 会 の 辞

開所以来5ケ年にわたつて指導所の運営並びに成果の発揚に御協力を戴いた次の9名の方々には北海道知



事名により林務部長から感謝状ならびに記念品目録が贈呈された。

- | | |
|---------------|-----------|
| 国策パルプ株式会社山林部長 | 小 滝 武 夫 |
| 旭 川 市 長 | 前 野 与 三 吉 |
| 松岡木材産業株式会社社長 | 真 弓 政 久 |
| ウロコ製作所専務 | 岡 本 貞 児 |
| 丸王木材株式会社社長 | 大 越 外 気 雄 |

北海道興林株式会社専務
元東洋木材株式会社社長
株式会社
ク

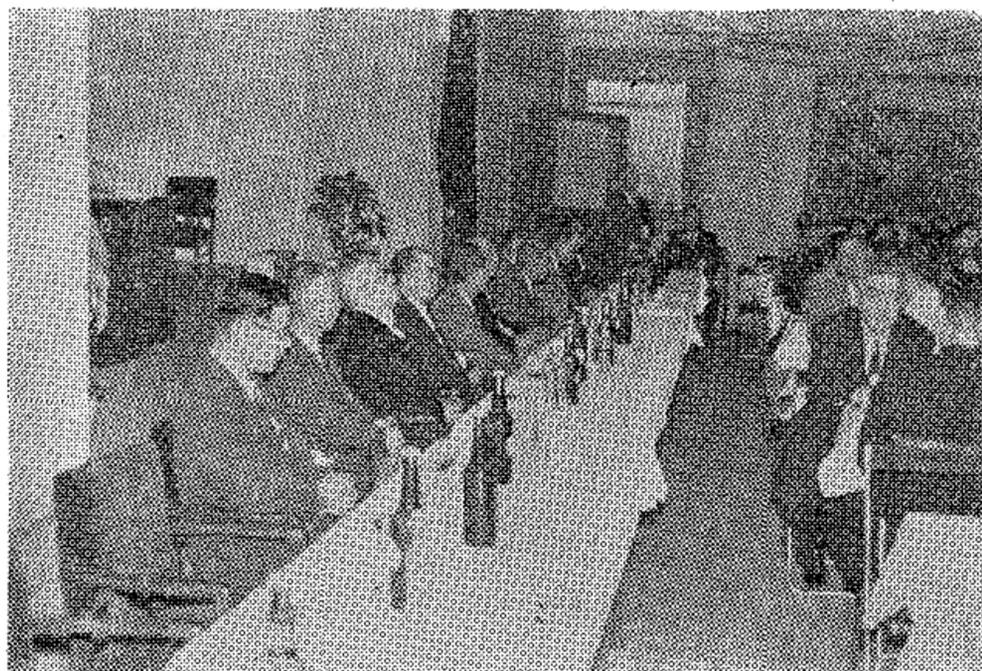
奥川賢次郎
加留部善次
名機製作所
菊川鉄工所

林野庁長官
林業試験場長
北海道議会議長
北大学長
北海道工業試験場長
旭川営林局長
北海道木材協会長
旭川市長
日本木材加工技術協会会長
参議院議員

柴田 栄
大政正隆
窪田林務委員(代読)
大沢教授(代読)
吉川総務課長(代読)
島本貞哉
山本茂郎
前野与三吉
安部理事(代読)
三浦辰夫

尚指導所創立当時から次長として困難な建設業務をはじめとして本道木材工業の研究ならびに指導普及機関たる今日の指導所をつくりあげるために文字通り寝食を忘れて健闘された小林庸次氏には指導所長から感謝状が贈られた。

又来賓のうちから次の10氏が祝辞を寄せられた。



次に衆議院議員松浦周太郎氏をはじめ国内各地から20通余の祝電の披露があつて約1時間10分にわたる式典を閉じた。

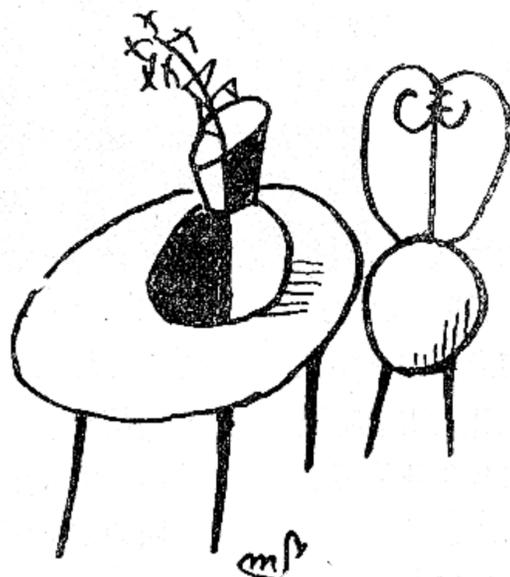
引続き同じ会場で指導所開設5周年記念祝賀協賛会主催による祝賀会が開かれた。先づ会長真弓政久氏から協賛会設立の経過報告をかねて挨拶があり極めて和やかな雰囲気の下に祝宴が続けられたその間、小滝国策パルプ山林部長、小林道森林企画課長、場崎北海道林材新聞社長等のユーモラスなテーブルスピーチがあつて最後に参議院議員堀末治氏の司会により指導所の乾杯が行われて午後7時祝宴の幕を閉じた。

開所五周年を迎えて

真弓政久

北海道立林業指導所が雄大な構想を以て発足し、旭川の近文にその最初の礎を下した時の我々の同所に対する期待は大きかつたが、たちまちにして既に5年を経て開所五周年記念式を挙げるという今日、今迄同所の挙げて来た諸方面の業績を振り返つてみると、將にその始めの期待を裏切らず、その功績の著しいものが認められることは誠に御同慶に堪えず、衷心より祝意を表する次第である。

近文に呱呱の声を上げた林業指導



所の成長は誠に目覚ましく、今や上川盆地、石狩川畔に一大工場が出現し、我国に於てはかゝる大規模の生産工場設備までを併有する研究機関としては他に比肩するものはなく、世界にも珍しい例としてその存在は遍ねく全国に知られ、来道する木材関係者で足を留めない人はいであろう。誠に北海道らしく雄大で、北海道に相応しい機関となつて来たといへよう。

設立当初の「マジソン林産物研究所を目標」との合言葉は殆ど具現され

更にそれを上廻つたかときへ見られる程である。

こういう理想に近い大きな規模の生産設備をもち、又、最新の研究設備に囲まれて幾多の新進気鋭の人達が生産に、研究に励まれているのであるから、数々の優秀な成果を生んで来られたことは将に当然の帰結であるとも言へようが、そこには矢張り現在の林業乃至木材利用に対する痛烈な批判精神が底に流れていて始めてこの成果を挙げられて来たのであろうということを見逃す訳には行かないであろう。

先日開所五周年記念式に当り、開放された所内を廻り、数々の研究設備、研究の成果を示す展示品や各種の参考品と、それ等の研究成果を実地に移した工場生産の実況を隅なく見せて頂くことが出来た。そうして木材糖化を中心とする木材化学工業、茸や酵母の研究防腐等に就ての概念を得、更にそれ等が立派に実用化されるようになる時代は夢ではなく、もうほんの間近に迫っているのだということを痛感させられたのである。

繊維板、チップボードや改良木材の前途は我々木材に関係するものゝすべてが等しく関心を持つて注目しているものであり、これの成否は製材、合板工場の将来の運命の鍵を握るものとして考えられているのであるが、同所に於ける生産実況は我々には好箇の参考となるものであり、興味深く拝見した。

こうして今回の所内開放展示はとにかく我々木材に関係している者のみならず、旭川に在住して見学にやつて来た人々にとつても、木材工業の現在の姿を一つの分かり易いモデルで見て全工程を容易に理解して、木材に対する認識を深め、更に、将来の木材産業の在り方に就て今迄は漠然としか考えられていなかったものが、一つの明かな形をとつて心の中に画いてみる事が出来る様になつたのではなからうかと考えられる。

この際、一人でも多くの方が木材産業に就てより多くのこと柄を知り、関心を持つようになつて、近い将

来に実現されるであろう総合森林産業に思を馳せてくれるようになることは歓迎すべきことであり、邦家のためにも慶賀すべきことであつて、これも林業指導所の啓蒙運動の一環として甚だ有益であつたろうと思われる。

過去五年間に於ける林業指導所の木材界に及ぼした影響の少くないことは前述した通りであるが、同所で発行している「林業指導所月報」は現在まで既に43号を数え、同所の研究発表機関誌として研究成果を広く認識してもらう役に立っている。この指導所月報は昭和28年9月(月報20号)より北海道林産技術普及協会に於てその発行を引受け「木材の研究と普及」(本誌はその24号である)を出している。本誌に盛られる内容としては、製材、合板、繊維板、チップボード、改良木材と工作法、林産物、防腐、木材の性質等に就ての基本的研究データから工場生産に即した実際的な数字にまでおよび、我国のこの種のものの中では珍しい貴重なものとして関心が集り、その反響を全国各地から聞かされるのは喜ばしいことであろう。

五年はかくしてたちまちに過ぎ去つたが、今後の木材産業の進歩は加速的に増大することであろうと思われる。現在行われている林業指導所の研究は続々工業化されることが期待され、又、それを指導して行かなければならない立場にある指導所としては、研究面にも生産面にも開拓者精神をもつて当初の理想の完成に進まれるよう、一方我々としても同所を大いに利用して行くよう心掛けて行きたいと願うものである。

林業指導所に於ける研究とその生産とは一体となつて十分にその機能を發揮して更にその成果を拡充し、林業指導所の我が木材界に占める位置の愈々大きからんことを望むと共に同所の設立及びその後の拡張に与かつて力のあつた各位に感謝の意を捧げる。

(林産技術普及協会会長)

木材質を改良した新製品展示会



林業指導所開所5周年記念行事の一つである新製品展示会を、8月23日より26日迄旭川市丸井デパートで開催した。指導所が木材加工業の中心、旭川市の一角にその基礎を

置いてから今年で早や満年を過ぎた。

この間の研究成果を公開し、業務の内容を紹介する事によつて、一般に木材有効利用の方法をより深く認識し且指導所の性格を理解して貰うのがこの展示会の目的であつた。特に最近では木材資源が不足していることは大いに叫ばれているから、この点一般の認識はあると思う。併し具体的に如何なる方法でこれを解決するかという点では案外無関心ではないだろうか？指導所

式辞

所長 柳下 鋼造

本日ここに林野庁長官始め、関係各位多数の御臨席の栄を賜り北海道立林業指導所開所五周年の記念式典を挙行致しますことは、当所の誠に光栄とするところであります。顧みまするに、北海道の林業研究指導機関として、札幌市郊外野幌の原生林に開設されました北海道林業試験場が、明治四十一年以来四十余年間に亘って、本道林業のために幾多の功績を残して参りましたが、昭和二十二年にそれまで北海道庁の所管でありました国有林が、林政統一により農林省に移管せられるに伴いまして農林省林業試験場となり、更に同場の機構の改組によって林産関係の研究施設が東京都目黒の本場に吸収されました結果、北海道に於ける林産関係の研究機関は全く失われるに至りました。

それがため北海道の林産工業の振興のため、本道の環境に適応し且新時代にふさわしい性格をもった独自の林業研究指導機関の必要が痛感せられるに至りまして北海道費による林業指導所の設置が計画せられ、それに基いて昭和二十四年十二月に本道木材工業の中心地である当旭川市に土地が選定せられ、当時の日本木材工業株式会社の敷地一四〇九一坪の地上権譲渡と建物一九〇八坪及び機械工作物等金貳千参百余万円で買収し、ここに当林業指導所が設立されるに至りました。爾来各年度に亘り逐次施設が拡充されて参りましたが、その主なるものは昭和二十五年度新設の製材工場、加工工場、昭和二十七年度の繊維板工場、昭和二十八年度の合板工場、昭和二十九年度のチップボード製造機械、今年度のモザイクフローリング製造機械等であります従いまして現在に於ける諸施設は敷地二七〇〇〇坪、建物工場倉庫住宅等六十八棟延四六六七坪、機械類を合して財産評価参億壹千余万円であります。次に機構におきましては、その後業務の推進上種々改善を加えまして現在では総務部二課、企画部二課、試験部一課三工場、研究部三研究室を以って構成し、総人員は二百六十三名となっております。

予算関係は昭和三十年度の収入予算壹億壹千万円、支出予算壹億四千五百余万円であります。当所設立の目的は本道林業林産の重要性に鑑み、木材工業の育成により本道の資源開発に寄与すると共に、国民生活の向上安定に資することを意図したものであります。この目的を達成するために木材の高度利用を中心とする応用研究と、その工業化に重点を置き研究成果は事業面に直結するようこれを中間試験工場に移し技術的試験、或は企業的検討を行いその結果を一般に普及指導致して参りました。この間に於ける当所の試験研究の成果はその都度研究報告、月報等に発表致して参りました。

この機会に研究成果一端を御披露させていただきますれば、段ボール、ロール、コラゲート等の特殊中芯の合板、プラスチック、レガー等の特殊合板、サニーボード、スプリントボード、シェーピングボード、タイルボード等のハードボード、吸音板、ランバーコア合板、モザイクフローリング、集成彎曲材等の一連の材質改良的手法による新製品、更に発泡接着剤、新防腐剤ポリデンソルト、或はシイタケ菌林指 1 号等があります。

その他木材糖化に関する研究並びに製材工場における薄鋸の使用、木材乾燥技術の向上改善、本道木材工業の経営分析等についても研究並びに調査を行っております。

以上は当所五ヶ年間業績の一端であります。これらが本道の木材の高度集約利用と木材工業の振興発展行致にいささかでも貢献致して居りますれば喜びと存ずる次第であります。而してこれらの成果を遂することの出来ましたことは、偏に関係各位の絶大なる御支援とこの面に対する道民各位の深い御理解によるものと心から感謝致しているもので御座います。

最後に当所はここに五ヶ年の歩みを続けて参りましたが、道の機関として道民の要望に沿いまして一層の努力を傾注致したい念願で御座いますから、今後共何分の御指導と御鞭撻に預りたく御願ひ申上げて式辞と致します。

告辞

北海道知事 田中敏文

本日ここに北海道立林業指導所開設五周年式典を挙げるに当り所懐の一端を述べる機を得ました事は、私の最も欣幸とするところであります。森林資源は、水産地下資源と、並んで本道における三大資源に属し、その蓄積は十九億石、我が国蓄積の3分の1を占める雄大なるものでありまして、これが合理的利用は本道の総合開発上、最も重要なばかりでなく、関連産業延いては、我が国の国民経済伸展上重要な地位を占むるところであります。

昭和二十三年林政の統一に際して内務省所管の野幌林業試験場と、皇室林野局所管の林業試験場が、併合せられて農林省所管となり、育成林業部門は、北海道支場に残され林産物の利用部門の研究は、中央の試験場に終結せられる結果となったのでありますが、私は他府県と樹種林相を異にする莫大なる森林資源を背景とする本道の木材工業のために、北海道独特の木材に関する研究指導機関の必要性を痛感し従来の研究機関を、再検討し産業に直結する指導機関を、設置する事とし調査研究室を、中核として、これに中間試験工場を配置して、研究成果は附属工場において経済並びに技術に立脚した企業試験に移し而して、得たる成果を直ちに木材工業界に役立たしめんと図ったのであります。

この構想は当時本邦に於いて初めての試みでありまして、その成否は、斯界から齊しく注目せられたのでありますが、昭和二十五年創設以来満五ヶ年地方財政上の困難性もありましたが、漸次設備の充実を進めると共に、此の間所員各位がよく創設の使命を体せられて真剣なる努力を傾倒せられ着々としてその業績が挙がるに至り、林産工業方面に幾多の新分野を開き、殊に従来利用価値の低かった未利用材及び、廃副材の新規利用面を開拓しあるいは又、木材化学工業部面に新しい曙光を見出して、広く業界に貢献するに至りましたことは、自他共に認めるところでありまして、誠に喜びに堪えない所であります。

私はこの機会に所員各位の献身的な御努力と御精励に対して深甚なる敬意謝意を表すると共に、更に本指導所の使命の重大なるに思いを致され化学的研鑽にあるいは技術の向上に一層の工合と精進をつくされ以って業界の興隆に一致協力せられんことを切望致しまして、告辞と致します。

祝辞

林野庁長官 柴田 榮

本日茲に北海道立林業指導所の開設満五周年の盛大なる記念式典を挙行せられるに至りましたことは、ひとり北海道林業、林産業の発展のためのみならず、我国林業、林産業の発展のため誠に慶賀に堪えない次第であります。

御承知の如く北海道の森林は我国の重要資源であり、その活用如何はただ北海道のみならず、日本の産業経済に及ぼす処の影響が極めて大きいのであります。本道におきましては、かような観点から夙にこの資源の高度有効利用化に努力を結集され、その具体的現われとして全国に先んじこの研究指導機関を設置されたのであります。本指導所は新しい木材利用の在り方に注目すべき幾多の示唆を与えられたるのみならずこれが企業化の可能性についても直接林業工業面へ適確な指針を与えられる等、企業の進歩発展に寄与せられた功績は極めて顕著なものがああります。開所後日尚浅いにもかかわらず、今日の成果を挙げ得られたことは創始者の卓見の然らしむるところでありましようが、これが運営に当る所長以下各位の日夜嘗々として研究努力せられた賜に外ならないのでありまして、衷心から敬意を表する次第であります。

願わくは今後益々御研鑽を積まれ、一層林業界への貢献進展にせられると共に、本指導所の益々発展せられんことを期待して止みません。この意義ある盛典を祝福し一言以って祝辞と致します。

祝辞

農林省林業試験場 大政正隆

本日ここに北海道立林業指導所開所五周年記念式を挙行せられるに当りましてお招きを受け、一言お祝いの言葉を申述べる機会を得ましたことは、私の大変喜びと致すところであります。

近年森林の乱伐や、引続き来襲する天災から国土の荒廃ことのほか著しく、国を挙げて国土の緑化推進、森林資源の保存が叫ばれておりますが、木材を無駄なく有効に利用する方法を研究することこそ、資源愛護の立場からわれわれ林産研究部門をもつ機関として最も力を致さなければならないものと考えられます。

貴指導所は林業試験場が林産研究部門の拡充統一を図るとほぼ期を一にして開設されました。以来貴所は常に私共の試験場と密接な連繫を保ちながら応用方面の研究とその成果の普及に努力せられ、木材工業界に多くの功績を残されました。かくして貴所がわが国最大の地方機関としての今日あるに至りましたことは道御当局の御理解はもとより、所長、研究員を初め、従業員諸氏の御努力の賜であると深い敬意を表します。貴所の業績の主なるものを挙げますと、先ず木材加工方面においては凍結材の製材技術の確立、製材歩止りの向上、製材作業基準及び道材乾燥スケジュールの決定、乾燥操作法の基準確立等があります。その他単板の切削に新理論を打立て、それにもとづく優良単板の製造法を決定する等業界に寄与するところが少なくありません。貴所はまた、発泡接着剤を考案し、彎曲集成材製造の理論的解析を行ってこの方面の今後の発展に寄与されようとしております。更に種々の材料をコアとする合板を試作されるなど、業界の要望が那邊にあるかを洞察して、新しい技術の確立を推進され、講習其の他を通じて、幾多輝かしい成果をあげつつあります。貴所の繊維板部門は、今や繊維板の年産二千トンの優秀工場をもってあります。

またチップボードもパイロットプラントの設備を完了し、繊維板、チップボード両者にわたる研究部門は全く充実されたものとなって、研究即生産の完全体系が確立されました。繊維板は未利用材または低価値材が主原料であり、チップボードには合板工業の廃材が用いられる等、常に新機軸が開かれて居ります。

これ等の施設の建設は、国内機械メーカーによき指針と刺激を与え、斯界に多大の貢献を示されました。

さらに特記しなければならないのは、貴所開設以来、毎年不如意勝な研究費の中から、木材糖化研究に対する委託費を支出されていることであります。

本年一月閣議の決定をみました「経済自立六ヶ年計画」並びに「木材資源利用合理化方策」最近の「産業構造研究会報告」は、何れも木材糖化工業の育成を図るべきであるとしており、道行政の一目標であることも周知の通りであります。

勿論これが工業生産の軌道にのり、国家経済に寄与するためには、新産業であるため、幾多の基礎研究と中間試験が行われなければなりません。貴所はこの研究を推進され、濃硫酸法による木材糖化の設計図を完了されました。

以上に述べました様にこの短い五年間に数々の輝かしい業績を残された貴指導所の卓見と御努力に対してはただただ敬服する次第であります。

願わくば斯界発展のために今後尚一層の御努力をお願い申し上げます。

本祝典に際し私共林業試験場も心からの御協力をお約束申し上げ御祝辞と致します。

祝辞

北海道立工業試験場長 高岡文夫

北海道における林産資源利用工業開発の指導機関として、設立以来すでに数多くの成果を挙げつつある北

北海道立林業指導所が、隆盛裡にここに満五周年の祝日を迎えましたことは、同じく試験研究にたずさわる機関の一つとして誠によろこびに堪えないところであります。

当林業指導所が設立以来、孜々として築きあげた各種の試験研究の成果は、今や本道の新しい木材利用工業に幾多の貴重な貢献をなしつつありますが、更に進んで不良木材を化学工業原料に利用せんとする。所謂木材糖化の試験研究の成果は広く世の注目を浴びるところでありまして、この機会にその完成の速やかなることを祈って止まない次第であります。

特に当林業指導所においては、試験研究機関の念願である試験研究と生産の直結を科学的に推進しておられることは、誠に敬服に堪えないところであります。今後益々所員御一同の御健闘を祈ると共に、当指導所の健全な発展を願って止みません。簡単ながらこれをもって祝辞と致します。

開所五周年記念式典経過

林業指導所が昭和 25 年に設置されて以来、本年で五周年を迎えることになったので 8 月 22 日から約 1 週間に亘って種々の記念行事が実施された。

本年は道の林業年次大会が 8 月 23 日に旭川にて開催されることになったのでこれと期を同じくしたため参加者も多く極めて正解裡に終了することが出来た。記念行事の実施に当っては協賛会をはじめ各方面の方々から非常な御高配を賜ったがこの機会に厚く御礼を申上げる次第である。

各行事は次の日程によって行われた。

8 月 22 日 午前 8 時～午後 2 時

招待者所内公開

8 月 〃日 午後 4 時～午後 7 時

記念式典及び祝賀会 アサヒビル 5 階

8 月 23 日 午前 9 時～午後 9 時

一般所内公開

8 月 23 日～8 月 26 日

記念展示会 丸井デパート 5 階

8 月 27 日 午後 1 時～午後 3 時

所内表彰式及び祝賀会

尚同時に実施される予定であった記念講演会及び研究発表会は種々の都合から秋に延期された。

記念式典及び祝賀会は指導所構内に適当な場所がないため止むを得ず旭川駅前アサヒビル 5 階上川生産連大講堂に於いて行われた。参加者は定刻 30 分前頃からあいついでつめかけ約 200 名に達した。

式の順序は次の通りで当所総務部長が進行係となって進められた。

1. 開 会 の 辞
2. 式 辞
3. 告 示
4. 感 謝 状 贈 呈
5. 来 賓 祝 辞
6. 祝 電 披 露
7. 閉 会 の 辞

開所以来 5 ヶ年にわたって指導所の運営並びに成果の発揚に御協力を戴いた次の 9 名の方々には北海道知

事名により林務部長から感謝状ならびに記念品目録が贈呈された。

国策パルプ株式会社山林部長	小 滝 武 夫
旭川市長	前 野 与 三 吉
松岡木材産業株式会社社長	真 弓 政 久
ウロコ製作所専務	岡 本 貞 児

丸王木材株式会社社長

大越外気雄

北海道興林株式会社専務 奥川賢次郎
元東洋木材株式会社社長 加留部善次
株式会社 名機製作所
" 菊川鉄工所

尚指導所創立当時から次長として困難な建設業務をはじめとして本道木材工業の研究ならびに指導普及機関たる今日の指導所をつくりあげるために文字通り寝食を忘れて健闘された小林庸次氏には指導所長から感謝状が贈られた。

又来賓のうちから次の 10 氏が祝辞を寄せられた。

林野庁長官	柴田 栄
林業試験場長	大政 正隆
北海道議会議長	窪田林務委員（代読）
北大学長	大沢 教授（代読）
北海道工業試験場長	吉川総務課長（代読）
旭川営林局長	島本 貞哉
北海道木材協会長	山本 茂郎
旭川市長	前野与三吉
日本木材加工技術協会会長	安部 理事（代読）
参議院議員	三浦 辰夫

次に衆議院議員松浦周太郎氏をはじめ国内各地から 20 通余の祝電の披露があって約 1 時間 10 分にわたる式典を閉じた。

引続き同じ会場で指導所開設 5 周年記念祝賀協賛会主催による祝賀会が開かれた。先ず会長真弓政久氏から協賛会設立の経過報告をかねて挨拶があり極めて和やかな雰囲気の下に祝宴が続けられたその間、小滝国策パルプ山林部長、小林道森林企画課長、場崎北海道木材新聞社長等のユーモラスなテーブルスピーチがあって最後に参議院議員堀末治氏の司会により指導所の乾杯が行われて午後 7 時祝宴の幕を閉じた。

開所五周年を迎えて
真弓政久

北海道立林業指導所が雄大な構想を以って発足し、旭川の近文にその最初の礎を下した時の我々の同所に対する期待は大きかったが、たちまちにして既に 5 年を経て開所五周年記念式を挙げるという今日、今迄同所の挙げて来た諸方面の業績を振り返ってみると、将にその始めの期待を裏切らず、その功績の著しいものが認められることは誠に御同慶に堪えず、哀心より祝意を表する次第である。

近文に呱呱の声を上げた林業指導所の成長は誠に目覚しく、今や上川盆地、石狩川畔に一大工場が出現し、我国に於いてはかかる大規模の生産工場設備までを併有する研究機関としては他に比肩するものはなく、世界にも珍しい例としてその存在は遍く全国に知られ、来道する木材関係者で足を留めない人はいないであろう。誠に北海道らしく雄大で、北海道に相応しい機関となって来たといえよう。

設立当初の「マジソン林産物研究所を目標」との合言葉は殆ど具現され

更にそれを上廻ったかとさえ見られる程である。

こういう理想に近い大きな規模の生産設備をもち、又、最新の研究設備に囲まれて幾多の新進気鋭の人達が生産に、研究に励まれているのであるから、数々の優秀な成果を生んで来られたことは將に当然の帰結であるとも言えようが、そこには矢張り現在の林業乃至木材利用に対する痛烈な批判精神が底に流れていて始めてこの成果を上げられて来たのであろうということを見逃す訳には行かないであろう。

先日開所五周年記念式に当り、開放された所内を廻り、数々の研究設備、研究の成果を示す展示品や各種の参考品と、それ等の研究成果を実地に移した工場生産の実況を隅なく見せて頂くことが出来た。そうして木材糖化を中心とする木材化学工業、茸や酵母の研究防腐等に就いての概念を得、更にそれ等が立派に実用化されるようになる時代は夢ではなく、もうほんの間近に迫っているのだとういうことを痛感させられたのである。

繊維板、チップボードや改良木材の前途は我々木材に関するもののすべてが等しく関心をもって注目しているものであり、これの成否は製材、合板工場の将来の運命の鍵を握るものとして考えられているのであるが、同所に於ける生産実況は我々には好箇の参考となるものであり、興味深く拝見した。

こうして今回の所内開放展示はとにかく我々木材に関係している者のみならず、旭川に在住して見学に来て来た人々にとっても、木材工業の現在の姿を一つの分り易いモデルで見て全工程を容易に理解して、木材に対する認識を深め、更に、将来の木材産業の在り方に就いて今迄は漠然としか考えられていなかったものが、一つの明かな形をとって心の中に画いてみる事が出来る様になったのではなからうかと考えられる。

この際、一人でも多くの方が木材産業に就いてより多くの事柄を知り、関心を持つようになって、近い将来に実現されるであろう総合森林産業に思いを馳せてくれるようになることは歓迎すべきことであり、邦家のためにも慶賀すべきことであって、これも林業指導所の啓蒙運動の一環として甚だ有益であったらうと思われる。

過去五年間に於ける林業指導所の木材界に及ぼした影響の少なくないことは前述した通りであるが、同所で発行している「林業指導所月報」は現在まで既に43号を数え、同所の研究発表機関誌として研究成果を広く認識してもらう役に立っている。この指導所月報は昭和28年9月(月報20号)より北海道林産技術普及協会に於いてその発行を引受け「木材の研究と普及」(本誌はその24号である)を出している。本誌に盛られる内容としては、製材、合板、繊維板、チップボード、改良木材と工作法、林産物、防腐、木材の性質等に就いての基本的研究データから工場生産に即した実際的な数字にまでおよび、我国のこの種のものの中では珍しい貴重なものとして関心が集り、その反響を全国各地から聞かされるのは喜ばしいことであろう。

五年はかくしてたちまち過ぎ去ったが、今後の木材産業の進歩は加速的に増大することであろうと思われる。現在行われている林業指導所の研究は続々工業化されることが期待され、又、それを指導して行かなければならない立場にある指導所としては、研究面にも生産面にも開拓者精神をもって当初の理想の完成に進まれるよう、一方我々としても同所を大いに利用して行くよう心掛けて行きたいと願うものである。

林業指導所に於ける研究とその生産とは一体となって充分にその機能を發揮して更にその成果を拡充し、林業指導所の我が木材界に占める位置の愈々大きからんことを望むと共に同所の設立及びその後の拡張に与かって力のあった各位に感謝の意を捧げる。

(林業技術普及協会会長)